

高浜市の未来を創る市民会議を振り返って (事務局による総括)

1. 全体会の運営について

工夫したこと・よかったと思うこと	課題（もっとこうすればよかった）と感じていること
<p>【メンバー】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「描く」メンバーの多くが引き続き参画してくださったとともに、新規メンバーも全体の約4割あり、新たな息吹を加えることができた。・ 様々な地域の方や活動している方が一堂に集う機会はなかなかなく、市民のみなさん同士の出会いの場、新たなつながりの場となっている。 <p>【参画感の創出】</p> <ul style="list-style-type: none">・ ホットでタイムリーな情報を共有できるよう、市及び市民団体からの「お知らせコーナー」を設けたところ、多くの方々から積極的に情報が寄せられ、発信された。・ ワークショップなど、分科会の枠を越えて意見交換をできる機会を設けるなど、楽しくアイデアを出し合える機会を工夫した。・ 分科会で検討したことを全体会へ投げかけて声を集めることにより、分科会の中だけでは気づかない示唆を得ることができ、検討内容に深みが生まれた。 <p>【市民会議の見える化】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 市民会議の開催内容を「広報たかはま」に掲載した。・ 毎回「壁新聞」を作成し、市民会議の見える化を図った。・ 「ニュースレター」を各まちづくり協議会の拠点施設へ配布した。	<p>【メンバー】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 女性や若い世代の参画を増やしたい。・ 新規メンバーや欠席者に対する配慮（フォローアップ）が必要である。 <p>【プログラム等の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none">・ “詰め込み感”をなくすため、取り上げる話題や資料等を常に精査するとともに、事前の資料配布や発表方法といった工夫が必要である。

2. 分科会の運営について

工夫したこと・よかったと思うこと	課題（もっとこうすればよかった）と感じていること
<p>【市民意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日頃から実践活動に取り組んでいる方たちが大半のため、「現場感覚」の発想、前向きで有意義な提言をたくさんいただいた。 <p>【職員意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の担当業務以外の分野にもアンテナを張るようになった。 <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員メンバーが事前に集まり、分科会での役割分担が行ったことで、分科会をスムーズに運営することができた。 <p>【話しやすい雰囲気づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> メンバー全員が発言できるような取り回しや、行政が主導しすぎないよう、市民の皆さんの意見を大切にしながら進めた。 良いアイデアを出せるように、お茶やお菓子を用意するなど、市民のみなさんがアイデアを出しやすい雰囲気づくりに努めた。 <p>【テーマ設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見を出しやすいテーマを設定したことで、実りある議論ができた。 	<p>【職員意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政としてどんなふうにしていきたいのかといった「想い」をしっかりと持って臨むことが不可欠である。 職員メンバーの人数が多すぎると「人任せ」になってしまう。役割意識を持たせることが必要である。 <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前に資料を配布するなど、じっくりと検討していただけるような配慮が必要である。 行政内部で使っている資料をそのまま提供するのではなく、用語・文章の「表現」、文字の大きさやレイアウト等の「見栄え」、資料の「ボリューム」といった配慮・工夫が必要である。 <p>【話しやすい雰囲気づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見を引き出しやすいよう、適正な人数規模にする必要がある。 <p>【テーマ設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定したテーマが広すぎて、議論が大味になってしまった。 <p>【回数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 時と場合によっては、単独分科会の開催を行うことも必要である。

3. 市民会議の目的・効果の検証

<p>① 市民のみなさんにとってより望ましい事業を展開できるようになったか？</p>	<p>② 行政活動に一定の緊張感を保つことができたか？</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで、市民参画を経て事業を考えていくことは少なかったが、市民会議で市民目線のアイデアをいただき、より良い事業にしていく環境は整った。大切なことは、このアイデアをどう活かし、事業を組み立てていくか、その実行性にある。行政としても、アイデアの活用について、説明責任を果たしていくことが求められてくる。出来る限り、来年度のアクションプランに反映させていきたいと考えている。 ・ 事業開始から1年を経過することから、来年度早々にまちづくり指標の測定を行い、本格的にPDCAを回していくこととなる。そこでの議論を踏まえ、より望ましい事業を展開できるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体会でのアクションプランの発表や分科会の進行やとりまとめ、事業を協働で進めることなど、常に市民の皆さんの目を意識する環境にあり、行政活動に一定の緊張感を保つことが出来たと考えている。 ・ 企業に勤めている方や企業経営者は、数字や成果に対する感覚が非常に鋭い。そうした視点を参考にしながら、経営感覚を磨いていくことが不可欠である。
<p>③ 市民と行政はお互いに「まちづくりのパートナー」という意識が高まっているか？</p>	<p>④ 地域のまちづくりに積極的に関わろうという意識を持った市民が増えているか？</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民のみなさんと一緒に考え、実行していくことやワークショップなどを通じて、市民と行政の距離が縮まり、お互いの信頼関係が高まってきていると感じる。 ・ 協働とは日頃縁の薄い部署の職員、若手職員にとっては、市民のみなさんと丁々発止のやりとりの経験を積む好機会となっている。市民のみなさんに職員を育てていただいていると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民会議の全体会で、まちづくりのホットな情報が提供され、イベントへの参加者が増えた。また、市民会議の協力をえて、イベントが開催されるなど、積極的にまちづくりに関わろうという意識を持った人も出てきているように感じられる。 ・ 地域の会合等で「市民会議でこういう話題があつてね・・・」と話している方があった。クチコミの力が地域の市民の意識を少しずつ動かしていくものと期待される。

4. 特ダネ！ ～私だけが知っている、みんなに伝えたい！ etc.

<ul style="list-style-type: none"> ・ 「まちづくりへの情熱」を共通言語に、違いを超えた和やかな連帯感を感じる市民会議は「大家族たかま」の縮図であると感じる。 ・ 市民のみなさん同士の「この市民会議は面倒と思っても、何となく面白くてまた来ちゃうんだよな」「続けて参加している人も多いよね」「会議に来て、嫌な思いをしないからだと思うよ」という会話を耳にし、感激をした。 ・ 多くの市民のみなさんと出会い、今まで気づかなかったお人柄を知るなど、新たな発見がたくさんあった。
--